

氏名	小坂 忠一郎
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第97号
学位授与の日付	昭和39年12月7日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	老壮年者の皮下脂肪厚に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 小川 勝士

学 位 論 文 内 容 要 旨

第一編においては Keys 式皮厚計を用いて正常老壮年者の皮下脂肪厚について検討した。

皮脂厚の3測定部位(上膊部, 腹部, 脊部)の間には有意な相関があり, 女子は男子に比較して大である。年今的には40才, 50才代が最も大である。また皮脂厚は Broca 指数ともよく相関する。栄養の指標としては脊部が適当であると考えられた。職業的には坐業を主とするものは腹部皮脂厚が大であり, 肉体労働を主とするものでは腹部と脊部の測定値の間に著しい差はみられない。

第二編においては 高血圧者の皮下脂肪厚について検討し, 腹部の値が著しく大となることを認めた。また腹部皮脂厚の大なるものは眼底所見, 心電図所見の悪化例が多い。腹部皮脂厚は血清コレステロール, リポ蛋白 ($\beta + \gamma / \alpha$) と相関し, このことより腹部皮脂厚は脂質代謝を介して動脈硬化等の有力な一指標と考えられる。

論文審査の結果の要旨

小坂忠一郎提出の「老壮年者の皮下脂肪厚に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

老壮年者の皮下脂肪厚と動脈硬化との関係を明らかにする目的で Keys 式皮厚計を用い、第1篇では3測定部位（上膊部、腹部、脊部）において、健康各年齢層の皮下脂肪厚を測定し、その意味づけを検討した結果、各部位間には有意の相関があり、女子は男子に比較して大で、年令的には40才、50才代が最も大であり、皮下脂肪厚は Broca 指数ともよく相関するのをみとめた。また栄養の指標としては脊部が適当であり、職業的には坐業を主とするものに腹部のそれが大であり、肉体労働を主とするものでは腹部と脊部の測定値に著しい差のないことをみとめている。第2篇では高血圧者について測定し、同時に他の諸検査を併用して検討した結果、高血圧者群では腹部の値が著しく大であり、その値の大きいものは眼底所見、心電図所見の悪化例が多く、腹部皮下脂肪厚は血清コレステロール・リポ蛋白 ($\beta + \gamma / \alpha$) と相関していることをみとめた。これらのことから、腹部皮下脂肪厚は脂肪代謝を介して動脈硬化等の有力な一指標となりうると結論している。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。